

# 野菜経営体の経営発展過程の分析における複線径路・等至性モデル (TEM) の適用可能性

及川奈実絵・佐々木久彦

(岩手県農業研究センター)

Applicability of the Trajectory Equifinality Model (TEM)  
for analyzing Vegetable Farmers' Management Development  
Namie OIKAWA and Hisahiko SASAKI  
(Iwate Agricultural Research Center)

## 1 はじめに

野菜経営体の経営発展のポイントや育成支援策を検討するためには、先進的な野菜経営体が、経営発展過程において経験する出来事と併せて、どのような行動選択や意思決定を行ったかを理解する必要がある。心理学的な手法である「複線径路・等至性モデル (Trajectory Equifinality Model: 以下、TEM)」は、個人の経験を時間経過との関係で捉え、当事者の行動選択や意思決定の径路を可視化する方法<sup>1)</sup>とされ (可視化された図を「TEM図」という)、野菜経営体の行動理解にもつながる可能性がある。

そこで本研究では、TEMの手法に沿った調査を実施し、野菜経営体の経営発展過程の分析や行動理解に対する適用可能性を検討する。

## 2 育成経過

TEMの手法では、研究目的に基づきある行動や選択を焦点化するポイントである「等至点」を設定して調査・分析を行う。

そこで、本研究では等至点を「経営が軌道にのる (EFP)」(調査対象が設定した経営目標を達成し、年間計画や資金繰り等の経営ペースが確立され、資金的にも経営が安定している状態)に設定し、調査・分析を実施する。

調査は、岩手県央でトマト1haを栽培している先進的な野菜経営体であるT氏を対象とし、インタビューを3回実施した。1回目は、T氏が就農を決意して現在に至るまでの経験を自由に語ってもらい、その内容を時系列順に並び替え、簡易なTEM図を作成する。2回目以降は、作成したTEM図をT氏に示しながら、内容確認及び修正を繰り返した。

## 3 調査結果及び考察

作成したTEM図は図1のとおりである。まず、TEM図を作成する中で、T氏には経営発展過程を区分するような画期的な出来事 (画期点: 期を分ける経験) がみられたことから、画期点で以下のとおり4つに時期を区分した。

①就農準備期 (就農希望から就農まで)

②経営開始期 (就農から経営拡大に向けた目標設定まで)

③経営拡大期 (経営拡大を進め、目標達成に至るまで)

④経営安定期 (経営拡大の目標を達成し、新たに設定した目標達成を目指すまで)

次に、T氏の行動理解について、図1の③の経営拡大期に着目して考察する。

「社員2名を雇用 (分岐点、BFP8)」では、「ハウス増棟の補助事業が採択される (分岐点、BFP7)」に伴い、社員確保が必要となったが、「福利厚生費の負担増 (社会的方向づけ、SD11)」という阻害する力がかかる中、「人材流出への危機感 (社会的助勢、SG21)」や「農の雇用事業 (社会的助勢、SG22)」が後押しとなって、社員の雇用に踏み切っている。このように、「社会的方向づけ (SD)」や「社会的助勢 (SG)」の社会的制約のもと、T氏がなぜその選択をしたか、その決断をせざるを得なかったか等、意思決定の背景にある要因や思考の過程、公的支援制度等が経営判断に及ぼした影響等を時間の経過とともに整理することができた。

さらに、等至点の対となる行動や選択を捉えるポイントとして「経営拡大が遅れる (両極化した等至点、P-EFP1)」を設定し、実際にはT氏が分岐点で選択しなかった径路を示した。これにより、T氏が遭遇する可能性があった見えにくくなっている径路を浮かび上がらせることができ、経験や径路の多様性を表すことが可能になった。

以上のように、TEMの手法によりT氏の経営発展を可視化することによって、T氏が経験した出来事だけでなく、T氏が意志決定をする際に周囲から受けた影響、意識の変化、行動選択等を、時間の流れに沿って捉えることができた。

このように、TEMの手法に沿った分析を通じて、就農を決意してから「経営が軌道にのる (EFP)」、さらに等至点以降のT氏の目標である「産地を担う人材育成 (セカンド等至点、2nd EFP)」に至るまでのプロセスにおける行動や選択を社会的背景とともに理解することができた。これは、野菜経営体の経営発展ポイントや支援策を検討するうえで重要な視点を提示するものとする。

#### 4 まとめ

本研究では、T氏を対象にTEMの手法に沿って分析した結果、T氏の経営発展プロセスにおける行動や選択を社会的背景を踏まえて理解することができた。このことから、野菜経営体の経営発展ポイントや支援策を検討するのに有効であると考えられる。

なお、複数の野菜経営体に対して同様の調査を実施し、共通性を捉えたいという経営発展のポイントとそれに必要となる支援策の整理は、今後の課題としたい。

#### 引用文献

- 1) 荒川歩, 安藤裕子, サトウタツヤ. 2012. 複線径路・等至性モデルのTEM図の描き方の一例, 立命館人間科学研究 25 : 95-107.

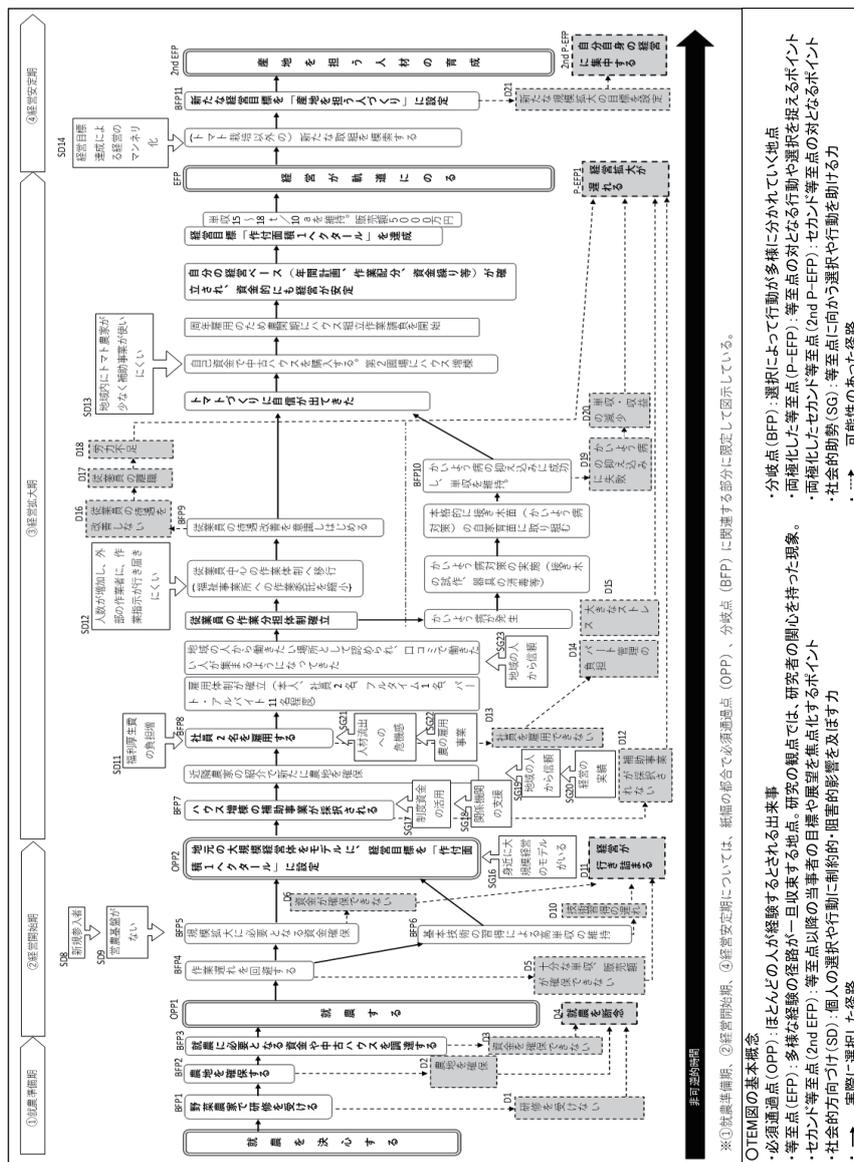


図1 T氏の経営発展過程のTEM図